

MAP①/D-3

49 天王院

天台宗。本尊は阿彌陀如来。天安2年(858)慈覚大師の開山。旧東海道沿いにあったが、明治44年(1911)の大火で山門を残して焼失。大正年間現在地へ移転。幕末から明治初年にかけて寺子屋を開く。旧鶴見村の名主佐久間家・塩田家や、生麦事件碑・関門旧蹟碑等を建てた黒川荘三、荘三と共に道標等を凝凝土で作成した吉川兼次郎、石工の飯島吉六らが眠る。茶室が古雅な趣を伝える。



MAP①/D-3

50 成願寺

曹洞宗。建功寺二世和尚の開創。元和年間に鶴見の二見台に移転したといわれている。明治39年(1906)に、広大な寺地を大本山總持寺移転建設地に献納して、大正元年(1912)現在地に移転。大本山總持寺の山内寺院として貫首禅師のご晋山の際には案内所とする習わしとなっている。薬師堂には薬師三尊と、その左右に十二神将が安置されている。



MAP①/D-3

51 見返し坂の碑・山神塔

明治5年(1872)鉄道が開通。陸軍少輔西郷従道が鶴見を訪れ、通称お墓山の途中で汽車の響きが聞こえ「この坂は汽車を見返し坂だ」といったことから見返し坂と命名。碑を黒川荘三が建立。現碑は3代目。山神塔は大正時代鶴見・獅子ヶ谷線の道路工事で、お墓山の開削は1年半をかけた難工事。一人の犠牲者も出なかった事を記念して山神塔の碑を建立。



MAP①/D-4

52 JR鶴見線

鶴見駅～扇町間を走り、海芝浦支線と大川支線を持ち総延長は9.7km、各駅の区間が0.5～1.6kmと短い路線。昼間の時間帯は運転本数が少なく、都市部では珍しく昭和46年に始発駅鶴見駅を除く全ての駅を無人駅とした。都会のローカル線とも称されこの路線を訪ねる鉄道ファンも多い。駅名の由来が珍しく、臨海部埋立の功労者の個人姓や関連企業名などから命名されたものがある。



MAP①/D-3

53 鶴見駅

新橋～横浜(現桜木町)間に鉄道が正式開業したのは、明治5年9月12日(旧暦)のことで、その翌日に鶴見駅が開業した。開業当時は東口のみであった。旧東海道沿いに、「旧鶴見駅停車場入口」の碑がある。西口は大正9年に開設された。平成24年に開業した駅ビルCIAL鶴見は、屋上庭園など、ビル内の各所に禅文化が取り入れられている。



MAP①/D-4

54 国道駅

第一京浜国道を跨いで、昭和5年に開設した駅。駅名「国道」の由来である。駅舎はアールヌーボー風の建物。開設当時は、ホーム下に「臨港アパート」があり、食品、雑貨、衣料品が販売されていた。かつて周辺は、旧東海道生麦魚河岸、花月園利用のお客や、駅周辺には映画館もあり賑やかな盛り場だった。昭和初期のレトロな雰囲気が残る駅として知られている。



MAP①/C-4

55 慶岸寺

浄土宗。天正9年(1581)慶岸上人によって創建された。旧東海道に沿った入口に地藏堂があり、室内には木彫りで立高1.8mの巨大な地藏尊が安置されている。この地藏は伝説とともに、安産と子育て地藏として深く信仰され、毎月23日に詠唱講中が奉詠。



MAP①/C-4

56 生麦魚河岸通り

徳川幕府以来、御菜八ヶ浦(おさいはちがうら)のひとつとして、江戸城に魚介類を定期的に献上していた。文政年間には、生麦村242軒の内60軒が漁業に従事していた。海岸の埋立で漁業は衰退し、昭和46年に漁業は完全に消滅した。最盛期に比べ魚介商の店は減少したものの、現在も飲食店業者から一般客まで、新鮮な食材を求めにくる。11月23日は、生麦旧東海道まつりで賑わう。



MAP①/C-4

57 鶴見川河口干潟(生麦)

鶴見川河口の右岸は、いつしか干潟が形成されここにカニや稚魚などの多くの生きものが生息し、現在では貴重な河川環境となっている。平成19年に築堤工事が完了し、人々が鶴見川にふれあえるようこの貴重な河口干潟を残し親水広場が整備された。平成23年度の「横浜市・人・まち・デザイン賞」まちなみ景観部門に選定された。



MAP①/C-4

58 正泉寺

真言宗智山派。寛永元年(1624)の開創。本尊は海中より出現したといわれる薬師如来坐像。春日仏師寛首羯磨の作と伝える。境内には浦名主十左衛門の墓、亀の供養塔、お心中様の供養碑があり、昔、漁村の寺であったことがうかがわれる。門前には慶安5年(1652)橋樹郡生麦村と刻まれた地藏尊がある。



MAP①/D-4

59 鶴見川起点(富士の眺望)

この場所が河口である鶴見川起点(0.0km)だったが、埋め立てにより約2km沖に伸びている。階段護岸や水辺の散策路も整備され、釣り船等が行き交い釣り人や水鳥も見られ、河口の風景を楽しむことができる。川沿いから富士と河口を眺望できるスポットで、平成17年に「関東の富士見百景」の「鶴見川からの富士」の一つに選定されている。



MAP①/D-4、MAP②/D-1

60 小野弁天神社と小野重行像

徳川五代将軍綱吉公の頃、塩害を防ぐ堤防を築こうとしたが、難工事で再三失敗し、甲斐武田一族の小野氏が日頃信仰する江ノ島弁財天の御加護により工事は順調に進行したと由緒にある。大正に入り小野重行は、この地域の開発と発展に努めるとともに、この社を修復整備した。



MAP①/D-4

61 潮鶴橋水際緑道

潮見橋から潮鶴橋までの両岸の散歩道。市民参加で人々が憩えるよう堤防天端と犬走りを整備し、平成6年に公開された。橋詰広場には樹木が植えられ、ベンチや彫刻、流域の案内板が置かれ、川の流れを眺めながら、ゆったりとした時を過ごすことができる。



MAP①/D-4

62 潮見橋・潮田の渡し跡

架橋前には鶴見と潮田を結び渡しや鶴見神社に伝わる神輿が流れ着いた天王河岸があった。明治時代には周辺に芸州浅野家の別荘があり風光明媚な場所であった。平成21年(4代目)の架け替えでは、地域住民や川の市民団体がプランが検討され、イベント等が行える橋上広場が設置されユニークなデザインの橋となっている。左岸には橋詰広場が整備されている。



MAP①/D-4

63 彫刻群(三つの扉等)

JR鶴見駅東口から潮鶴橋にかけて現代彫刻11点が点在する。これらの作品は、第3回横浜ビエンナーレ'93で、彫刻の設置区域を鶴見区に決めて作品募集をして入賞した作品。JR鶴見駅東口広場には〈三つの扉〉、ベルロードには〈Family'93〉、区役所の前には〈大地の刻み「風雪の門」〉、潮鶴橋水際緑道付近には〈何をしているの?〉、〈億万年の骨の詩〉、鶴見図書館前には〈旅立ち〉などの作品がある。



MAP①/D-3

64 鶴見神社(鶴見の田祭り)

推古天皇代の創建。横浜・川崎間最古の社。古くは杉山大明神といい、大正9年(1920)鶴見神社と改称。鎌倉時代より伝わる神事芸能(田遊び)は、正月16日の杉山祭で執行されていたが明治5年(1872)に廃絶。昭和62年に百余年ぶりに再興。現在は4月29日斎行。境内から弥生時代末～古墳時代の土器類や貝塚(横浜市指定遺跡)・竈穴住居址などが発見されている。



MAP①/D-3

65 ぼてふり地藏

江戸の末期、生麦村や潮田村の魚河岸から、ハマグリやアサリなどの魚介類を寺尾や末吉方面に売り歩いていた「ぼてふり(棒手売)さん」と呼ばれる行商人たちがいた。彼らは、当時三角交差点のあたりにあったお地藏さんに、いつも商売繁盛の願をかけていた。そのお地藏さんは横浜大空襲時に消失してしまったが平成15年に「ぼてふり地藏」として現在地に再建された。



MAP①/D-3

66 鶴見川漕艇場・鶴見スポーツセンター

河川改修によって、左岸川沿いに鶴見川漕艇場(北部第一水再生センター内)、鶴見スポーツセンターが整備されている。堤防天端は散策やサイクリングなどに利用されている。天気の良い日には川面を行き交うボートやカヌーなどを見ることが出来る。漕艇場では有料でカヌーやボートが利用可能。



MAP①/D-3

67 佃野公園・佃野防災船着場

鶴見川が大きく蛇行していたところを緩やかな河道に改修し、旧河道を埋め立て佃野公園と親水護岸が整備された。夏の風物詩となっている鶴見川サマーフェスティバルのイベント会場に使用され、花火大会では周辺の堤防天端も含めて大変多くの人々で賑わう。防災船着場は、災害時に川から物資輸送を行うなど川辺の防災拠点として重要な施設となっている。



MAP①/D-3

68 森永製菓(株) 鶴見工場

森永製菓は、「日本に西洋菓子を普及させる」という大きな夢を胸に、アメリカから帰国した森永太郎により明治32年(1899)創業。第一次世界大戦後、お菓子の需要が急速に伸びたことから、大正14年(1925)に鶴見に新鋭の製菓工場が出来た。構内には創業者の銅像がある。鶴見工場では平日にチョコレートなどの包装工程の見学ができる。要電話予約。



MAP①/D-3

69 鶴見橋関門旧跡

鶴見橋の名称は第一京浜国道に架けられた橋に譲り、鶴見川橋に変わった。安政6年(1859)の横浜開港以来、外国人に対する殺傷事件が度々発生したため、不審な浪士や旅人を取り締まるため、鶴見橋の袂に関門が設けられた。その跡地に「鶴見橋関門旧蹟」の碑を黒川荘三が明治15年(1882)に建立。昭和20年の大空襲で焼失したが、地元有志が再建(横浜市登録文化財)。



MAP①/E-3

70 鶴見川桜堤・花畑(リバーサイドガーデン等)

市場や潮田の地域要望から堤防沿いに桜や草花が植えられ、平成16年からは鶴見川桜・緑化実行委員会により川沿いの緑化を進め、区制80周年を記念して80本の桜を植樹しベンチも設置した。平成24年からは沿川の町会・自治会や小中学校、企業等が参加して年2回鶴見川グリーンキャンペーンが行われ、鶴見川沿いの散歩道四季を通じて多くの人々に親しまれている。



MAP①/E-3

71 市場一里塚(旧東海道)

慶長9年(1604)、幕府は東海道などの諸街道を修復し、日本橋を基点として街道の両側に相対して一里塚を築いた(横浜市登録文化財)。旧東海道に面して、「市場村一里塚」の記念碑が建っている。江戸日本橋から五つ目の一里塚。明治9年(1876)の地租改正のおり、この一里塚も払い下げられ、稲荷社のある片方だけが残っている。



MAP①/E-3

72 専念寺

浄土宗。はじめは観音堂であったが、のちに京都知恩院大僧正によって一寺となったといわれている。今も本堂に定朝作、紫式部の念持仏と伝える千手観音が祀られている。什物に富士浅間宮のご神体で、開創の由来となっている夜光石がある。「江戸名所図会」『新編武蔵野風土記稿』に記されている。



MAP①/E-3

73 熊野神社 (市場)

弘仁年中紀州熊野の別当尊慶の勸請と伝えられている。社殿は火災や鶴見川・多摩川の氾濫の度に再建され、明治5年(1872)新橋横浜間の鉄道開設の際に現在地に遷座。明治6年(1873)村社となり、熊野神社と改称。境内には鶴見橋を詠んだ句碑や市場小学校発祥の碑・市場村名主添田知通の寿徳碑などがある。



MAP①/E-3

74 箱根駅伝記念像

平成9年に鶴見区制70周年を記念して往路の1区と2区の鶴見中継ポイントに作られた。タイトルは「明日へ走る」。作者は横浜生まれの垣内治雄。箱根駅伝は大正9年(1920)に誕生。当初、鶴見区内は旧東海道を走っていた。第7回大会から第一京浜国道を走り、中継所の場所も変遷があつて現在のところとなった。毎年沿道は応援で賑わう。



MAP①/D-4

75 潮田神社・潮田公園・庚申塔

潮田神社が現在地に遷座する以前は、東潮田が杉山社、西潮田が御寮社を祀っていたが、大正8年(1919)両社合併し、大正9年潮田神社と改称。昭和62年戦災後再建した社殿を改築。境内には大田南畝の『調布日記』に記されている「海翁石」がある。境内西側には潮田公園、北側には庚申塔がある。6月の例大祭は70基の神輿が巡行する。



MAP①/E-4

76 東漸寺 (故大川常吉氏の碑)

真言宗智山派。寛治元年(1087)、醍醐寺三宝院の勝覚法印により建立。ご本尊は大日如来で江戸初期の作。境内には大川常吉の石碑がある。これは関東大震災の時、鶴見警察署長の大川常吉は、朝鮮人暴動のデマが流れたとき、激昂した一部の暴民を押さえ、多くの朝鮮人を救った。感謝の念を込め、多くの朝鮮人々が昭和28年3月27日に碑を建てた。



MAP①/E-4

77 おきなわ物産センター

仲通商店街にあり、沖縄の名産品を各種販売している。3階には沖縄出身者のための会館があり、会合や沖縄民謡・舞踊の練習などがおこなわれ、地域の人たちとの交流の場としている。潮田地区は、多文化共生の街ともいわれ、沖縄関係の他に、ブラジルやチリなどの南米料理の店などがある。



MAP②/E-1

78 日東緑地・日東浜公園

第1次大戦による経済界の活況から、潮田海岸から八丁駅付近の間に運河を開き船航運輸の便を計画し、工場用地事業の推進を図ったが、その後、工業界が不振となり工場用地は住宅地に変わり、埋立てた運河の跡地は「日東緑地」「日東浜公園」となった。近年では緑道沿いにマンションが建ち、その公開空地が一体となって緑豊かな散歩道となっている。



MAP②/D-1

79 汐入公園

潮田地区の区画整理事業によって生まれた公園。近くの汐入小学校脇の歩道にドイツ・ハンブルグ市の「桜の女王」が来訪したときに記念植樹した「ソメイヨシノ」がある。産業道路・高速道路の整備で公園用地が削られたが、地域とともに歩みながら緑豊かで落ち着いた公園となっている。



MAP②/E-1

80 入船公園

都市防災と緑の環境が保てるように配慮された公園。ナイター設備完備の野球場・テニスコートや手軽に運動が出来る施設、憩いの場として楽しめる広場や、芝生が広がる自由広場などがある。広場は毎年10月に行われるつみ臨海フェスティバルや平成16年からは鶴見ウチナー(おきなわ)祭の会場にもなっている。



MAP②/D-2

81 末広水際線プロムナード

末広町の工場地帯南端にある港湾緑地で、平成16年に市民と地元企業約900人が参加して約10,000本の苗木を植樹した。その後毎年6月に「育樹のつどい」で草取りなどを行ない、今では立派な「京浜の森」に育っている。目の前に鶴見つばさ橋、大黒ふ頭、遠くにベイブリッジ等の眺望が素晴らしい。海釣りや散歩やジョギングなどが楽しめる。



MAP②/D-1

82 横浜市立大学 鶴見キャンパス

横浜市立大学鶴見キャンパスでは、革新的な計測技術を駆使した生物学の新分野として原子・分子レベルでの生命医学の確立を目指して、ポストゲノム時代に対応できる研究開発能力を持った人材を育成するための先端的教育・研究活動を行っている。また、同一敷地内の理化学研究所との連携大学院の機能を持ち、年に一度の一般公開を共催している。



MAP②/D-2

83 ふれーゆ

平成8年に横浜市初の高齢者保養研修施設として開館し、資源循環局の余熱を有効利用した温水プール及び大浴場を中心に、大広間、ホール、レストランなどを備えた施設。大広間からはベイブリッジ、鶴見つばさ橋とともに夕陽を楽しむことができる。また、スポーツ教室、カルチャー教室なども行われている。☎ 第2火曜



MAP②/D-2

84 海芝公園

鶴見線支線終点「海芝浦駅」に隣接した小さな公園。企業の好意によって設けられており、ここから見える鶴見つばさ橋の眺めは絶景。平成18年に拡大新装が行われた。海芝浦駅は企業敷地内駅のため、一般旅客は外に出ることができない海の上にある珍しい駅でもある。



MAP②/E-1

85 浅野総一郎銅像 (東亜建設工業株)

鶴見は、大正時代、大規模な埋立事業が進み、潮田の地先には広大な埋立地が形成された。京浜工業地帯発展の基となった埋立事業を企画推進し、鶴見臨港鉄道(現在の鶴見線)を開設したのは浅野総一郎である。九転十起の男といわれた翁の銅像は東亜建設工業株(前身は鶴見埋立組合)の敷地内にあるため、見学は会社の許可が必要。



MAP②/C-1

86 貨物線の森緑道

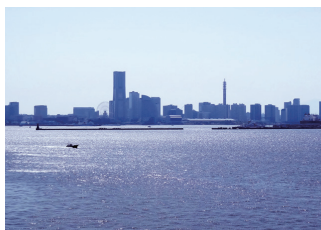
かつて臨海部の工場地帯を走っていた貨物線の跡地が緑道として整備されている。周辺の小学校の子どもたちがどんぐり等を植え、工業地域の中に森ができています。この森を緑道愛護会が中心となり、沿道企業の社員なども参加して維持管理が行われている。トンボや野鳥もやってくる工場地帯のオアシスとなっている。



MAP②/B-3

87 大黒大橋 (富士の眺望)

大黒町と大黒ふ頭を結び斜張橋で、昭和49年に竣工した。ここからは横浜港を一望でき、客船と大さん橋、みなとみらい地区、その背後に丹沢山系と富士を望む様子は正に絶景。平成16年に「関東の富士見百景」の「鶴見川からの富士」の一つに選定された。また、ダイヤモンド富士と橋の両側に鶴見つばさ橋と横浜ベイブリッジも眺められる。



MAP②/B-3

88 横浜ベイブリッジ

大黒埠頭(鶴見区)と本牧埠頭A突堤(中区)とを結ぶ長さ860m(中央支間長460m)の斜張橋(吊り橋)。平成元年開通。当初は上層部の首都高速湾岸線だけであった。下層部は平成16年に国道357号(自動車専用的一般道)として開通した。海面からの高さは約55メートルある。かつてあった横浜スカイウォークは平成22年に閉鎖された。



MAP②/D-3

89 鶴見つばさ橋

翼を広げて鶴が舞い立つような美しい形をした橋は、平成6年大黒ふ頭と扇島の間に完成した。鶴見航路を横断する全長1020m、海面からの路面の高さ57m、主塔の高さは183mの逆Y字型の斜張橋。鶴見の海辺のシンボルとなっている。鶴見つばさ橋を通して、初日の出が見られる。



MAP②/C-4

90 大黒海づり公園

房総の景色や海ほたる、飛行機の離発着が眺められ、東京湾を行き交う大型船舶が目の前を通り、シッピングウオッチングができる。花や魚をモチーフにしたモニュメントなどがあり、広い公園で一日のんびり楽しむことができる。季節限定のバーベキュー広場や西端には桟橋タイプの釣り施設、駐車場がある(全て有料)。



☎ 要問合せ ☎ 506-3539

つるみの おはなし 鶴見七福神

平成23年創設。毎年御開帳は1月4日~12日。古くから信仰されてきた由緒ある神々を七福として、毎年多くの人が鶴見の七福神めぐりに参加。

- 73 福祿寿(市場熊野神社)
- 64 寿老人(鶴見神社)
- 46 大黒尊天(總持寺)
- 45 毘沙門天(東福寺)
- 58 恵比寿神(正泉寺)
- 43 福寿弁財天(安養寺)
- 32 布袋尊(松蔭寺)

つるみの おはなし 桜の名所

区内の桜の名所としては、「日本のさくら名所100選」に選ばれている県立三ツ池公園をはじめ、主要な公園や鶴見川沿い及び下末吉台地の斜面樹林地などがあげられる。鶴見川では主に鶴見川橋から潮見橋にかけて鶴見川沿いに桜並木があり、多くの散策者に楽しまれている。ソメイヨシノ、ヨコハマヒザクラ、オカメザクラ、カンザクラ、オオシマザクラ等が代表的。

【主なみどころNo.】

10 14 61
70 79

つるみの おはなし 旧東海道

慶長6(1601)年に東海道が整備。鶴見は川崎と神奈川の宿の間にあり、間の宿と呼ばれていた。街道沿いには、浮世絵にも描かれている名勝鶴見橋や、ままんじゅうを商う店、しがらき茶屋、サボテン茶屋などが軒を並べ、旅人が道中、名物料理を食べたり、お土産を買ったりして楽しんだ名残りを現碑等で知ることができる。

【主なみどころNo.】

- 71 市場一里塚
- 69 鶴見橋関門旧跡
- 41 生麦事件発生場所
- 42 生麦事件碑

つるみの おはなし 富士の眺望

鶴見の富士の眺望は何といっても、江戸時代の鶴見の浮世絵に描かれている旧東海道鶴見橋袂からの富士山。現在、関東の富士見百景には鷹野大橋、大黒大橋、鶴見川河口0.0kmの場所が選定されている。響橋、梶山橋、横浜商科大学付近等からの富士の眺めもすばらしく、多くの区民に楽しまれている。

つるみの おはなし 鶴見区 三大区民フェスティバル

鶴見は山(台地)あり、川あり、海ありの街である。それぞれの地域に沿ったテーマで開催され、大いに賑わい楽しまれている。

- ★『三ツ池公園(文化・環境)フェスティバル』が5月に三ツ池公園で開かれる。池や森を背景に、鶴見で一番大きいフリーマーケットがある。
- ★『鶴見川サマーフェスティバル』が8月に鶴見川・佃野公園周辺で開かれる。鶴見川クルーズ、ボート体験や鶴見川花火大会などが開かれる。
- ★『つるみ臨海フェスティバル』が10月に入船公園で開かれる。多文化共生の街をひかえる地域でもあり、沖縄やブラジルに関連する催しなどもある。

つるみの おはなし 寺尾の高札

馬場と東寺尾の5つの自治会が中心となり、つるみ・地域のつながり応援事業の一つで「寺尾奉行」として、町に埋もれている歴史や言い伝えを調べ、次の世代に伝えて行く事を目的に平成26年に高札を14ヶ所設置した。その後、毎年高札が追加され、平成28年末には心願地藏、馬場の赤門、鍛冶屋敷跡など22ヶ所の高札が、馬場・東寺尾周辺に設置されている。